



市内のイベントを随時発信!

十和田市ブログ駒の里

検索

### 10/18 馬と触れ合う2日間 10/19 十和田駒フェスタ

中央公園緑地などを会場に「第21回十和田駒フェスタ」が開催され、多くの家族連れが訪れ、にぎわいを見せました。

「全日本流鏑馬選手権」には、北海道から広島県まで48人の選手が参加。人馬一体となって見事に的を射抜くと観客から大きな拍手が送られていました。

そのほかにも、障害物を飛び越える「十和田ジャンプ」や乗馬ショーが行われ、馬との触れ合いを楽しみました。



華麗にバーを跳躍、観客を魅了した「十和田ジャンプ」

### 9/28 官庁街通りに鳴子の音が響き渡る 2014 とわだ Yosakoi 夢まつり

市役所周辺の官庁街通りおよび中央公園緑地を会場に「2014 とわだ Yosakoi 夢まつり」が開催されました。

県内はもとより岩手県、秋田県から全27チーム、約600人の踊り子が躍動感あふれる演舞を披露し、会場を訪れた観客を魅了しました。今回初めて行われた北里大学、弘前大学、青森公立大学の学生たちによるスペシャルコラボ「100人演舞」では、見る者を圧倒するパフォーマンスを展開し、一層の盛り上がりを見せていました。



市内からは「西小あかねっこ」など5チームが参加。沿道からの声援を背に、元気いっぱいの演舞を披露



新設されたハーフマラソン。色鮮やかな紅葉を見せる八甲田山を背に力走するランナーの皆さん

### 10/12 1,623人のランナーが十和田を駆け抜ける とわだ駒街道マラソン大会

市陸上競技場を中心に「第19回とわだ駒街道マラソン大会」が開催され、市内外から1,623人のランナーが参加し、秋の彩りを見せる十和田を駆け抜けました。

今回は市制施行10周年を記念し、ハーフマラソンコースを新設。ランナーの皆さんは6コースで健脚を競いました。また、ゲストランナーとして石原良純さんが参加。2kmのジョギングコースを子どもらと一緒に走り、大会を盛り上げました。

### 10/11 新渡戸友好都市提携25周年を記念 多くの市民が花巻市探訪ツアーに参加

十和田市開拓の祖「新渡戸傳」ゆかりの都市として、平成元年に旧十和田市と岩手県花巻市が新渡戸友好都市を提携し、スポーツ・教育・文化などの各分野で交流を重ね、今年で25周年を迎えました。

これを記念し、花巻市探訪ツアーが行われ、市民約120人が参加しました。参加者らは「花巻新渡戸記念館」などを見学するとともに、記念式典に出席。記念植樹の様子を見守りながら、交流の節目を祝いました。



25周年を記念し、両市の関係者が花巻新渡戸記念館敷地内に十和田市の木「もみじ」を植樹

### 10/8 十和田湖観光の新たな拠点施設 十和田湖観光交流センターオープン

市が十和田湖畔休屋で空き施設となっていた旧遊覧船ターミナルを取得し、整備した、新たな観光拠点施設「十和田湖観光交流センター」(愛称:ぷらっと)がオープン。市や地元関係者約40人が出席し、落成式典が行われ、新施設のオープンを祝いました。

同センターの1階には、ヒメマスに関する資料や「十和田湖ひめマス」を水槽で展示し、2階には、高村光太郎や大町桂月の資料を展示しています。



「十和田湖ひめマス」の水槽展示。施設を訪れた児童も興味津々



88歳を代表して、杉山千枝さんに小山田市長から長寿祝金が贈呈されました

### 9/26 ご長寿を祝い、社会貢献の高齢者を顕彰 十和田市すこやか長寿を祝う会

市民文化センターで「第10回十和田市すこやか長寿を祝う会～老人福祉大会～」が開催され、市民ら約1,000人が参加しました。

大会では、長寿をたたえ90歳に達した171人に顕彰状が、88歳に達した305人に長寿祝金が贈呈されました。アトラクションでは、ひまわりふれあいサロンによる介護予防体操や市老人クラブによる踊りが披露されるなど、参加者は和やかなひとときを過ごしました。

### Pick Up

#### 十和田で踊って唄って楽しもう! フェスティバル十和田 三本木ナイト

9月23日、市現代美術館向かいのアート広場で、十和田奥入瀬プロジェクト実行委員会(藤浩志会長)が主催し、音楽家・大友良英さんや美術家・奈良美智さんを招いてアーティストと参加者が入り交じりながら、三本木小唄を演奏し、踊る「フェスティバル十和田～三本木ナイト～」が開催されました。

音楽部部長の大友さんが地域のかたがたによるオーケストラを指揮し、三本木小唄、あまちゃん音頭や地元へ帰ろう音頭などを演奏すると、奈良さんを部長とする美術部が制作した色鮮やかなやぐらを中心に、踊りの輪が幾重にも広がりました。広場には、楽器を演奏する人、踊る人、それを楽しそうに見る人、それぞれの熱気が辺りに漂いました。

夫婦で訪れた畔柳英子さんは「孫と娘が踊るので見に来ました。参加している皆さんは楽しそうで、いいですね」と、笑顔で話しました。

やぐらから連なる提灯の明かりが、広場を幻想的に包む中、多くのかたが、アーティストたちと繰り広げる特別な「三本木ナイト」を楽しみました。



多くのかたが楽器などを持ち寄り演奏に参加



美術部が制作したやぐらを中心に夜が更けるまで踊り、演奏して楽しみました